

教師ノート

週課	第一年 第一一課 第一週
単元	創世記・4
テーマ	信仰者の結婚
タイトル	イサクの結婚
テキスト	創世記 24 章
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 詩篇 25:12
AG 日曜学校教案参照箇所	小上 2 巻 2 題 11 課、小下 2 巻 1 題 11 課、幼 1 巻 1 題 5 課
メモ(情報・例話など)	<p>「イサクの結婚」の物語は、創世記の他の出来事に比べて、非常に詳しくかつ長い記事になっています。その重要な意味とは・・・</p> <ol style="list-style-type: none">1) 歴史的: 旧約聖書の時代、結婚がどのようなものであったかを伝えています。本人同士ではなく、親・兄弟が積極的に参加しているように見えます。しかし、この物語の焦点は、結婚までの全ての過程が、慎重に祈りによって導かれ、神の御手の内にある確信が持てるなら、イサクとリベカのように御心を素直に受け入れることができるということにあります。また、祝福を約束されたアブラハムの子孫イサクですから、その配偶者選びが、歴史的に重要な出来事であったことは言うまでもありません。2) 道徳的: しもべは、主人の思いを第一優先に置き、それを忠実かつ全力をもって行動に表すべきことが語られています。ここに、神が求めておられる忠実な「しもべ」の姿の実例を見ることができるのです(参照ルカ12:37-48,16:10-13,17:10、エペソ6:6、1コリント4:1-3)。3) 霊的: 常に神に信頼し、祈り、導きを求めながら行動すべきことが教えられています。私たちは、日常的に祈り、神との交流をもつように奨められています(ルカ18:1、1テサロニケ5:17)。また、この物語は、信仰をもってささげられる祈りに、神が確かに応えて下さることも強調しています。さらにしもべは、祈りがきかれたとき、心から感謝と賛美をささげています。 <p>☞メッセンジャーは、これらの意味を理解しつつ、ドラマチックに語るができるように準備しましょう。スキットや紙芝居で、効果的に伝える工夫をしましょう。</p>
□導入	<p>例1:「どっちを選べばいいんだろう・・・」と迷った時に、お祈りしたら神さまが教えてくれた、という経験がある人はいませんか？</p> <p>例2:あなたは、どんな人と結婚したいと思いますか？美人な女性ですか？スポーツ選手ですか？それともやさしい人ですか？もし神さまが、「このひとがあなたの結婚相手ですよ」と教えてくださったら、どんな気持ちでしょう？</p>
□ポイント1 アブラハムはイサクの花嫁選びをしもべに任せました(1-10節)	<p>アブラハムは年老いて、息子イサクは40歳になろうとしていました。神は約束どおり、アブラハムをあらゆる面で祝福しておられました。アブラハムはその祝福が彼の子孫まで受け継がれるという約束を信じていたからこそ、イサクの花嫁選びは重要なことだと考えました。この重要な仕事をする「しもべ」とは、召使というより家臣・家令の重要な役職の人のことで、アブラハムから全財産の管理を任されるほど信頼されていました。アブラハムは、カナン人が多神教を信じ、みだれた生活をしていたので、神の民であるユダヤ人との混血を避けるべきと考えました(参照=申命記7:3、出エジプト34:16)。しもべは、しっかりと主人の思いを理解して、アブラハムの故郷へ、花嫁探しに出て行きました。</p>

☞ ももの下に手を置いて誓う＝象徴的に生殖器に触れることを意味し、特別に厳粛な誓いをするときに行なわれた習慣です。神が命を与えることや、アブラハムが割礼をもって契約のしるしとしたことなどに関係があると言われています。

□ポイント2 しもべは祈ってリベカを探し当てました(11-27節)

しもべはナホルの町の井戸のところで、まず祈りました。しもべは、テストをしてイサクの結婚相手を選ぼうとしているではありません。確かに、旅人だけでなくラクダ10頭に水を飲ませようとするのは、並大抵の親切さ・丁寧さではありませんから、そのような内面的性質を求めていたのも事実でしょう。しかし、しもべは、自分で選ぶのではなく、神が選び備えてくださっている御心の人を、ただ知りたいと願い祈っていたのです。その証拠に、まだ祈り終わらないうちに、リベカが現れ、祈ったとおりのことが目の前で起こった時、驚き興奮したはずですが、しもべは、最後まで黙って、慎重に神の御心を確認することに専念しました。神が、内的条件(親切・優しい)も外的条件(美しい・未婚・アブラハムの親族)も、期待していた以上にイサクにピッタリな結婚相手に導いてくださったので、しもべはひざまずいて、神をほめたたえました。

☞ 系図＝ナホルはアブラハムの兄弟(イサクのおじ)、ミルカはアブラハムの姪(イサクのいとこ)。ベトエルはナホルとミルカの子。ベトエルの子がラバンとリベカ。

☞ しもべは単に「しるし」を求めているではありません。聖書は、神を疑い、試みるためにしるしを求めることについては否定的です。しかし、このしもべのように、御心を必死で求める者に神は哀れんで導きを明らかにして下さいます(例:ギデオン、トマス)。しるしを見ないと信じられないのはよくありませんが、神は私たちに、自分の頭で悩み、迷ってばかりの信仰生活を送るよりも、思い切って神にしるしを求め、確信をもって歩むクリスチャンになって欲しいと願っておられます。

□ポイント3 リベカはイサクとの結婚を決めました(28-67節)

リベカの家に招かれたしもべは、父ベトエルと兄ラバンに、すべての経緯を話しました。それで皆、この結婚が神の導きであることを確信しました。家族はなごりおしくなり、出発を遅らせようとしたが、リベカは信仰をもって、旅立ちの決心をします(アブラハムが約束の地に旅立った時と比較)。イサクとリベカは、結婚までの全ての過程が祈りによって導かれ、神の御心だという確信が持てたので、結婚しました。☆リベカの気持ちを想像しよう。会ったこともない人と結婚するために、見知らぬ地に旅立ったのです。また、待っているイサクの気持ちも想像してみよう。

□結論 神さまは、アブラハムのしもべを、お祈りしたとおりのイサクの結婚相手に導いてくださいました
暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

- 1) 神さまは、イサクにふさわしい結婚相手を備えておられ、みこころがわかるように、アブラハムのしもべを導いてくださいました。あなたは「神さまの計画通りに歩みたい」、「御心のものをゲットしたい」と心から願っていますか？御心を求める人になろう！
- 2) 神さまを信じ、御心に従って生きようとしても、何が御心か、どうすれば神さまに喜ばれるのか、分からなくなってしまうことがあります。それでもあきらめないうちに、祈り求める信仰を持ちましょう。特に、重要な選択(将来の部活・進学・就職・結婚など)の時には、御心の方向へ導かれるように慎重に祈ろう！聖霊さまが必ず導いてくださるよ！神さまは、あなたにすばらしい計画を備えてくださっています。
- 3) しもべは、主人の思いを第一優先に置き、それを忠実かつ全力をもって行動しました。あなたも、イエスさまの御用をするしもべです。イエスさまの思いを第一にし、小さなことにも忠実に一生懸命取り組む人になりましょう。
- 4) リベカのように人のために親切で丁寧な対応ができる人になりましょう。頼まれたこと以上に与えられる人になりましょう。